

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル陸海軍ニ屬スル臨時事件費特別會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十七年三月二十九日

内閣總理大臣伯爵桂 太郎
海軍大臣伯爵山本權兵衛
大藏大臣伯爵曾根荒助
陸軍大臣 寺内正毅

法律第二號 (官報 三月三十日)

陸海軍ニ屬スル臨時事件費特別會計法

陸海軍ニ屬スル臨時事件費ノ會計ハ一般ノ歲入歲出ト區分シ臨時事件ノ終局マテテ一會計年度トシテ特別ニ之ヲ整理ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル非常特別稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十七年三月三十一日

内閣總理大臣伯爵桂 太郎
内務大臣子爵芳川 顯正
農商務大臣男爵清浦 奎吾
大藏大臣男爵曾根 荒助
司法大臣 波多野敬直

法律第二號 (官報 四月一日)

非常特別稅法

第一條 臨時事件ニ因リ生シタル經費ヲ支辨スル爲本法ニ依リ地租、營業稅、所得稅、酒稅、砂糖消費稅、醬油稅、登錄稅、取引所稅、狩獵免許稅、鑛區稅及各種ノ輸入稅ヲ增徴シ毛織物及石油ニ消費稅ヲ課シ民事訴訟用印紙ヲ增貼セシム

第二條 地租、營業稅、所得稅、酒稅、砂糖消費稅、醬油稅、登錄稅、取引所稅、狩獵免許稅、鑛區稅及飲食物衣服及附屬品、石油、砂糖、糖蜜、糖水、絹布類、酒類、煙草類ノ輸入稅ハ關係法規ノ定メタル稅額ノ外左ノ割合ノ稅額ヲ增徴ス

一 地租

市街宅地

地價百分ノ五、五

郡村宅地

其ノ他ノ土地

地價百分ノ三五

地價百分ノ一八

二 營業稅

營業稅法ニ依ル稅額十分ノ七

三 所得稅

第一種及第三種所得

所得稅法ニ依ル稅額十分ノ七

四 酒稅

酒造稅法ニ依ル酒類

第一種

一石ニ付金五十錢

第二種

一石ニ付金五十錢

第三種

一石ニ付酒精分一度毎ニ金二錢五厘

麥酒

一石ニ付金五十錢

酒精又ハ酒精含有飲料(原容量百分中純酒精ノ)

一石ニ付原容量百分中純酒精ノ容量
一箇毎ニ金二錢五厘

沖繩縣酒類出港稅

沖繩縣酒類出港稅則第一條第一項ニ依リ課稅スヘキ酒類

一石ニ付金五十錢

同第二項ニ依リ課稅スヘキ酒類

一石ニ付原容量百分中純酒精ノ容量
一箇毎ニ金二錢五厘

五 砂糖消費稅

- 第一種
- 第二種
- 第三種
- 第四種

- 百斤ニ付金一圓
- 百斤ニ付金三圓
- 百斤ニ付金三圓二十錢
- 百斤ニ付金三圓七十錢

六 醬油稅

醬油稅則第二條本文ニ依ル場合

醬油

諸味一石ニ付金五十錢
製成一石ニ付金五十錢

醬油

諸味一石ニ付金二十五錢

溜

製成一石ニ付金二十五錢

醬油

諸味一石ニ付金二十五錢

七 登錄稅

不動產ニ關スル登記

法定ノ家督相續ニ因ル所有權ノ取得

不動產價格千分ノ三

法定ノ家督相續以外ノ家督相續又ハ遺產相續ニ因ル所有權ノ取得

不動產價格千分ノ五

遺言ノ取得

不動產價格千分ノ十

遺言、贈與其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得

不動產價格千分ノ五

其ノ他ノ原因ニ因ル所有權ノ取得

不動產價格千分ノ三

從來保有セル所有權ノ保存

不動產價格千分ノ三

華族世襲財產ノ創設

不動産價格千分ノ五

船舶ニ關スル登記

法定ノ家督相續ニ因ル所有權ノ取得

船舶價格千分ノ二

法定ノ家督相續以外ノ家督相續又ハ遺産相續ニ因ル所有

權ノ取得 船舶價格千分ノ五

遺言、贈與其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得 船舶價格千分ノ二十

其ノ他ノ原因ニ因ル所有權ノ取得 船舶價格千分ノ五

從來保有セル所有權ノ保存 船舶價格千分ノ二

登錄稅法第六條及第六條ノ二ニ依ル登錄稅

課稅標準ノ千分比例ヲ以テ稅率ヲ定メタルモノ 課稅標準千分ノ一

一箇所毎ニ又ハ一件毎ニ稅額ヲ定メタルモノ

稅額金十圓ナルトキ 金五圓

稅額金五圓ナルトキ 金二圓

稅額金三圓ナルトキ 金二圓

稅額金二圓ナルトキ 金一圓

稅額金一圓ナルトキ 金五十錢

稅額金五十錢ナルトキ 金二十錢

礦業ニ關スル登錄

試掘 金二十五圓

- 八 取引所稅
 - 探掘 金五十圓
 - 試掘増區及増減區ニ係ル訂正 金十圓
 - 探掘増區及増減區ニ係ル訂正 金二十五圓
 - 買受、讓受 金二十五圓
- 九 狩獵免許稅
 - 賣買各約定代金高 萬分ノ三
 - 國債及地方債證券 萬分ノ二
 - 一等 金十圓
 - 二等 金五圓
 - 三等 金一圓
- 十 鑛區稅
 - 鑛區一千坪毎ニ一箇年金十錢
- 十一 輸入稅
 - 關稅定率法附屬輸入稅表第二類ニ掲クル物品但シ糖菓類ヲ除ク 從價五分
 - 糖菓類
 - 甲 菓子 從價一割
 - 乙 砂糖糖蜜若ハ糖水ヲ以テ貯藏シタルモノ 從價五分
 - 關稅定率法附屬輸入稅表第三類中ニ掲クル物品ニシテ絹製及絹入ノモノ 從價二割

酒精(アルコール) 每リートル金三錢
 各種變性アルコール 每リートル金三錢
 各種酒精劑(阿片丁幾ヲ除ク) 每リートル金三錢
 石油 從價二割
 砂糖(和蘭標本色相第十五號未滿) 從價二割五分
 糖蜜 從價二割
 糖水 從價二割
 支那縮緬 從價一割
 支那絹紬 從價一割
 支那絹縞子 從價一割
 支那絹紋縞子 從價一割
 絹縞縞子 從價一割
 刺繡絹布及刺繡絹縮布 從價一割
 其ノ他各種ノ絹布(純絹ト他物ヲ交ヘタルト別タス但シ 從價一割
 絹ノ重量超過スルモノ) 從價十割
 諸製造煙草 從價二割
 支那酒(醸造シタルモノ) 從價二割
 清酒 從價二割
 各種ノ酒類ニシテ原容量百分中純酒精ノ容量五十以上ナル

モノ

純酒精ノ容量一箇ヲ増ス每二十「リ
 ートル」ニ付金五厘

第三條 毛織物及石油ニハ左ノ割合ニ依リ消費稅ヲ課ス

一 毛織物

價格百分ノ十五
 毎ガロン金三錢二厘

二 石油

前項ニ於テ毛織物ト稱スルハ毛ノ分量ニ拘ラス總テ毛製、毛絹製又ハ毛縞製ノ織物ヲ謂フ

第四條 訴狀其ノ他民事訴訟ニ關スル申立又ハ申請ノ書面ニハ民事訴訟用印紙法ニ依リ貼用スヘキ印紙ノ外左ノ印紙ヲ増貼スヘシ

一 第一審ノ訴狀

財産權上ノ請求ニ係ルモノ

金五錢

訴訟物ノ價額金五圓マテ

金十錢

同 十圓マテ

金二十錢

同 二十圓マテ

金三十錢

同 五十圓マテ

金三十錢

同 七十五圓マテ

金五十錢

同 百圓マテ

金五十錢

同 二百五十圓マテ

金一圓

同 五百圓マテ

金一圓

同 七百五十圓マテ

- 同 千圓マテ 金三圓
 - 同 二千五百圓マテ 金五圓
 - 同 五千圓マテ 金五圓
 - 同 五千圓以上ハ千圓ニ達スル毎ニ 金一圓
 - 財產權上ノ請求ニ非サルモノ 金五十錢
- 二 控訴狀
第一審ノ訴狀ニ増貼スヘキ印紙金額ノ半額
- 三 上告狀
第一審ノ訴狀ニ増貼スヘキ印紙金額ト同額
- 四 支拂命令ノ申請
訴訟物ノ價額金十圓ヲ超過スル場合ニ於テハ民事訴訟用印紙法及本法ニ依リ第一審ノ訴狀ニ貼用スヘキ印紙金額ノ半額ト金二十錢トノ差額
前項ノ差額ハ民事訴訟法第三百九十條ノ規定ニ依リ訴カ區裁判所ニ屬スル場合又ハ第三百九十一條第二項ノ規定ニ依リ地方裁判所ニ訴ヲ起ス場合ニ於テ訴訟ニ付キ貼用スヘキ印紙ノ額ニ之ヲ通算スヘシ
- 五 其ノ他ノ申立又ハ申請
期日ノ變更辯論ノ延期又ハ辯論期日ノ指定ノ申立
中斷又ハ中止シタル訴訟手續ノ受繼ノ申立
從參加ノ申請

- 忌避ノ申請 金二十錢
- 和解ノ申立
- 費用額確定ノ申請
- 假執行ノ宣言ヲ求ムル申立
- 強制執行ノ停止又ハ續行若ハ執行處分ノ取消ノ申立
- 配當要求
- 家資分散ノ申立又ハ家資分散者ノ復權ノ申立
- 強制競賣又ハ強制管理ノ申立
- 債權又ハ他ノ財產權差押ノ申請
- 民事訴訟法第七百三十二條乃至第七百三十四條ノ申立
- 證據調ノ申立
- 判決ノ送達ヲ求ムル申立
- 執行力アル正本ヲ求ムル申立
- 但シ此ノ正本數通ヲ求ムルトキハ每一通ニ付
- 假差押又ハ假處分ノ申請 金五十錢
- 抗告
- 故障
- 答辯書其ノ他特ニ掲ケサル申立又ハ申請 金五錢
- 左ニ掲クル申立又ハ申請ノ書面ニハ民事訴訟用印紙法ニ依リ貼用スヘキ印紙ノ外金八十錢ノ印

- 紙ヲ増貼スヘシ
- 一 裁判上代位ノ申請
- 二 競賣法ニ依ル競賣ノ申立
- 三 裁判上ノ代位競賣法ニ依ル競賣又ハ不動産登記ニ關スル抗告
- 訴訟物ノ價額又ハ請求ノ價額金二十圓以下ナルトキハ第一項第五號ノ規定ヲ適用セス
- 本條第一項ノ規定ハ再審ヲ求ムルノ訴狀及原狀回復ノ申立ニ之ヲ準用ス
- 第五條 商事非訟事件ニ關スル申立又ハ申請ノ書面ニハ商事非訟事件印紙法ニ依リ貼用スヘキ印紙ノ外左ノ印紙ヲ増貼スヘシ
- 一 左ニ掲クル申立
 - 抗告
 - 債權者ヨリ爲ス破産宣告ノ申立
 - 支拂猶豫ノ申立
 - 金五十錢
 - 二 其ノ他ノ申立又ハ申請
 - 金五錢
 - 財團ノ價格金五圓マテ
 - 金十錢
 - 同 十圓マテ
 - 金二十錢
 - 同 二十圓マテ
 - 金四十錢
 - 同 五十圓マテ
 - 金六十錢
 - 同 七十五圓マテ
 - 金六十錢

- 同 百圓マテ
 - 金一圓
 - 同 二百五十圓マテ
 - 金一圓
 - 同 五百圓マテ
 - 金四圓
 - 同 七百五十圓マテ
 - 金四圓
 - 同 千圓マテ
 - 金六圓
 - 同 二千五百圓マテ
 - 金十圓
 - 同 五千圓マテ
 - 金十圓
 - 同 五千圓以上ハ千圓ニ達スル毎ニ
 - 金二圓
- 前項ノ規定ハ商事非訟事件印紙法第六條及第七條ノ場合ニ之ヲ準用ス
- 商事非訟事件印紙法第五條ノ規定ハ本條第二項ノ規定ニ依リ印紙ヲ増貼スヘキ場合ニ之ヲ準用ス
- 第六條 左ニ掲クルモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ消費稅ヲ免除ス
 - 一 外國ニ輸出スル毛織物又ハ石油
 - 二 製造者ノ自用ニ供スル毛織物又ハ石油
 - 第七條 毛織物又ハ石油ノ消費稅ハ製造場、稅關又ハ保税倉庫ヨリ毛織物又ハ石油ヲ引取ル時引取人ヨリ之ヲ徵收ス
 - 第八條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ毛織物及石油消費稅ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得
 - 第九條 製造場、稅關又ハ保税倉庫ヨリ毛織物ヲ引取ル者ハ引取ノ際其ノ價格ヲ政府ニ申告スヘシ

前項ノ申告ヲ爲サス又ハ政府ニ於テ其ノ申告シタル價格ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ハ毛織物ノ價格ヲ評定ス

毛織物引取人前項ノ評定價格ニ不服ナルトキハ即時異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

異議ノ申立アリタルトキハ二人以上ノ鑑定人ヲ選定シ其ノ意見ヲ徵シ政府之ヲ決定ス

異議申立人ノ主張ニ係ル價格ト第二項ノ評定價格トノ差カ第二項ノ評定價格ト前項ノ決定價格トノ差ヨリ大ナルトキハ鑑定ニ關スル費用ハ其ノ申立人ノ負擔トス

第十條 第六條又ハ第八條ニ該當スル場合ノ外消費稅納付前ニ於テハ製造場、稅關又ハ保稅倉庫ヨリ毛織物又ハ石油ヲ引取ルコトヲ得ス

第十一條 毛織物又ハ石油製造者ハ第六條又ハ第八條ニ該當スル場合ノ外消費稅納付前ニ於テ毛織物又ハ石油ヲ他ニ引渡シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第十二條 自用ニ供スルモノヲ除ク外毛織物又ハ石油ヲ製造セムトスル者ハ政府ニ申告スヘシ

第十三條 毛織物又ハ石油製造者ハ其ノ製造場ニ於テ毛織物又ハ石油ノ賣買業ヲ兼營スルコトヲ得ス

第十四條 毛織物又ハ石油ノ製造者及販賣者ハ帳簿ヲ備ヘ毛織物又ハ石油ノ製造出入ヲ詳細明瞭ニ記載スヘシ

第十五條 收稅官吏ハ毛織物又ハ石油ノ製造場又ハ販賣場ニ立入り毛織物又ハ石油、其ノ原料、器具、器械、建築物又ハ帳簿書類ヲ検査スルコトヲ得

收稅官吏ハ監督上必要ト認ムルトキハ前項ノ物件ニ封印ヲ施スコトヲ得

第十六條 收稅官吏ハ運搬中ニ在ル毛織物又ハ石油ヲ検査シ其ノ出所及到著先ヲ質問スルコトヲ得

得

前項ノ場合ニ於テ監督上必要ト認メタルトキハ收稅官吏ハ其ノ運搬ヲ停止シ又ハ荷物若ハ船車ニ封印ヲ施スコトヲ得

第十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ消費稅五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ其ノ税金ヲ徵收ス但シ罰金額ハ十圓ヲ下ルコトヲ得ス

一 自用ニ供スル場合ノ外政府ニ申告セシテ毛織物又ハ石油ヲ製造シタルトキ

二 擔保物ヲ提供セシテ消費稅ノ徵收ヲ猶豫セラレタル場合ニ於テ製造場、稅關又ハ保稅倉庫ヨリ引取り又ハ移出シタル毛織物又ハ石油ヲ他ニ讓渡シ若ハ消費シタルトキ

三 第十條又ハ第十一條ノ禁令ヲ犯シタルトキ

第十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

一 毛織物又ハ石油ノ製造者又ハ販賣者毛織物又ハ石油ノ製造出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リ若ハ怠リタルトキ

二 收稅官吏其ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ其ノ執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ若ハ之ニ支障ヲ加ヘタルトキ但シ刑法ニ正條アル場合ハ刑法ニ依ル

第十九條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル者ニハ刑法ノ減輕、再犯加重及數罪併發ノ例ヲ用ス

第二十條 毛織物又ハ石油ノ製造者、販賣者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ當業者ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 毛織物又ハ石油ノ製造者又ハ販賣者ノ代理人、戶主家族同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス

第二十二條 北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ハ左ノ制限以內ノ地租附加稅又ハ段別割ヲ課スルノ外土地ニ對シテ課稅スルコトヲ得ス

一 北海道府縣、北海道ノ區、一級町村及二級町村、沖繩縣ノ區及間切島

附加稅ノミヲ課スルトキ 地租 十分ノ五

段別割ノミヲ課スルトキ 一段歩ニ付平均金四十錢

附加稅及段別割ヲ併課スル場合ニ於テ段別割ノ總額ハ總段別地租額ノ十分ノ五ト附加稅總額トノ差額ヲ超ユルコトヲ得ス

二 其ノ他ノ公共團體

附加稅ノミヲ課スルトキ 地租 十分ノ三

段別割ノミヲ課スルトキ 一段歩ニ付平均金四十錢

附加稅及段別割ヲ併課スル場合ニ於テ段別割ノ總額ハ總段別地租額ノ十分ノ三ト附加稅總額トノ差額ヲ超ユルコトヲ得ス

北海道府縣以外ノ公共團體ハ營業稅又ハ所得稅百分ノ三十ヲ超過スル附加稅ヲ課スルコトヲ得ス

第二條ニ依ル地租、營業稅及所得稅ノ増徵額ニ對シテハ附加稅ヲ課スルコトヲ得ス
府縣費ヲ市町村ニ分賦シタル場合ニ於テハ其ノ金額以內ニ限り市町村ハ內務大藏兩大臣ノ許可

ヲ受テ第一項又ハ第二項ノ制限ヲ超過シテ附加稅又ハ段別割ヲ課シ若ハ附加稅及段別割ヲ併課スルコトヲ得

明治三十六年度以前ニ起シタル負債ノ元金償還及利子仕拂ノ爲若ハ非常ノ災害ニ因リ復舊工事ノ爲費用ヲ要シ又ハ其ノ費用ノ分賦ヲ受ケタル場合ニ於テ特ニ內務大藏兩大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ第一項又ハ第二項ノ制限ヲ超過シテ附加稅又ハ段別割ヲ課シ若ハ附加稅及段別割ヲ併課スルコトヲ得

北海道ノ宅地及海産干場ニ付テハ特ニ內務大藏兩大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ第一項ノ制限ヲ超過シテ附加稅又ハ段別割ヲ課シ若ハ附加稅及段別割ヲ併課スルコトヲ得

水利ノ爲ニ費用ヲ要スル場合ニ於テ特ニ內務大藏兩大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ第一項ノ制限ヲ超過シテ附加稅又ハ段別割ヲ課シ若ハ附加稅及段別割ヲ併課スルコトヲ得

第一項及第二項ノ制限ハ特ニ賦課率ヲ定メタル特別法令ノ適用ヲ妨ケス

附則

第二十三條 本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ輸入稅ニ關シテハ本法發布後六箇月ヲ經テ之ヲ施行ス

地租、營業稅、所得稅ニ關シテハ明治二十七年分ヨリ本法ヲ適用ス

第二十二條ノ課稅制限ハ明治二十七年分ヨリ之ヲ適用ス

北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ノ稅目又ハ稅率ニシテ本法ノ規定ニ抵觸スルモノハ其ノ抵觸ノ部分ニ限り其ノ效力ヲ失フ

第二十四條 自用ニ供スルモノヲ除ク外本法施行前ヨリ毛織物又ハ石油ヲ製造シ本法施行後引續

キ之ヲ製造セムトスル者ハ本法施行後一箇月以内ニ本法ニ依リ政府ニ申告スヘシ
前項ノ期間内ハ従前ノ製造ヲ繼續スルコトヲ得

第二十五條 第一種砂糖、糖蜜及石油ニ付テハ本法施行後六箇月ヲ經過シタルトキハ本法ニ依ル消費稅ヲ課セス

第二種砂糖ニ付テハ本法施行後六箇月ヲ經過シタルトキハ第二條第五號ヲ適用セス百斤ニ付金二圓三十錢ノ消費稅ヲ増徴ス

第二十六條 本法施行後保稅倉庫ニ庫入シタル砂糖ニシテ和蘭標本色相第十五號未滿ノモノ及糖蜜ニ付テハ庫出ノ日ニ於テ行ハルル輸入稅率ヲ適用ス

第二十七條 平和克復ニ至リタルトキハ其ノ翌年末日限本法ヲ廢止ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル醫藥用工業用酒精稅法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十七年三月三十一日

內閣總理大臣 伯耆桂 太郎
大藏大臣 男爵曾禰荒助

法律第四號(官報四月一日)

醫藥用工業用酒精稅法中左ノ通改正ス

第一條中「若ハ輸入稅ヲ削リ」醫藥用又ハ工業ヲ「命令ノ定ムル所ニ依リ命令ヲ以テ定メタル醫藥又ハ工業ノ」ニ改ム

第二條 前條ノ酒精ニシテ工業用ニ供スルモノニ付テハ政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ變性ヲ命スルコトヲ得

第三條中「又ハ輸入稅」ヲ削除

第四條 削除

附則

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前ニ於テ造石稅又ハ輸入稅ノ賦課ヲ受ケタル酒精ノ税金下戻ニ關シテハ仍舊法ヲ適用ス但シ本法施行後六箇月ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

〔參照〕

法律第十一號醫藥用工業用酒精稅法(明治三十四年三月三十日)抄錄

第一條 造石稅若ハ輸入稅納付濟ノ酒精ヲ醫藥用又ハ工業用ニ供スル者ハ政府ノ承認ヲ得テ毎同一石以上ノ酒精ヲ使用スルトキニ限リ其ノ納付シタル造石稅若ハ輸入稅ニ相當スル金額ノ下付ヲ政府ニ請求スルコトヲ得

第二條 酒類又ハ其ノ他ノ飲料製造用ニ供スル酒精ニハ前條ヲ適用セス

第三條 第一條ニ依リ金額ノ下付ヲ請求セムトスル者ハ申請書ニ造石稅又ハ輸入稅ヲ納付シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

第四條 本法ハ明治三十四年十月一日ヨリ施行シ同日以後造石稅又ハ輸入稅ノ賦課ヲ受ケタル酒精ニ之ヲ適用ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル明治三十四年法律第十號中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十七年三月三十一日

內閣總理大臣 伯耆桂 太郎
大藏大臣 男爵曾禰荒助

法律第五號(官報四月一日)

明治三十四年法律第十號中左ノ通改正ス

第一條第一項ヲ左ノ如ク改ム

命令ノ定ムル所ニ依リ造石稅ヲ課セラレタル酒類、酒精若ハ酒精含有飲料又ハ麥酒稅ヲ課セラレタル麥酒ヲ外國ニ輸出シタル者ハ造石稅又ハ麥酒稅ニ相當スル金額ノ下付ヲ政府ニ請求スルコトヲ得

第二條第三號ヲ左ノ如ク改ム

三 外國ニ陸揚シタルコトヲ證スヘキ書類但シ命令ヲ以テ之ヲ限定スルコトヲ得

附則

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行シ同日以後製成シタル酒類、酒精若ハ酒精含有飲料又ハ麥酒ニ之ヲ適用ス

造石稅又ハ麥酒稅納付濟ノ酒類、酒精若ハ酒精含有飲料又ハ麥酒ニシテ本法施行前ニ製成シタルモノヲ外國ニ輸出シタル者ニハ仍舊法ヲ適用ス

〔參照〕

法律第十號(明治三十四年三月三十日)抄錄

第一條 帝國内ニ於テ製造シタル酒類又ハ酒類其ノ他酒精ヲ含有スル飲料ヲ外國ニ輸出シタル者ハ左ノ割合ニ依ル金額ノ下付ヲ政府ニ請求スルコトヲ得但シ葡萄酒ヲ以テ釀造シタル葡萄酒ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 前條ニ依リ金額ノ下付ヲ請求セムトスル者ハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附シ之ヲ輸出港稅關ニ提出スルコトヲ要ス

三 外國輸入港稅關ノ輸入免狀又ハ其ノ他外國ニ陸揚シタルコトヲ證スヘキ書類

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル沖繩縣酒類出港稅則中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十七年三月三十一日

内閣總理大臣 伯耆 桂 太郎
大藏大臣 男爵 曾根 荒助

法律第六號(官報四月一日)

沖繩縣酒類出港稅則中左ノ通改正ス

第一條中移出スルトキハ「下ニ」旅客ノ攜帶品タルト否トヲ問ハス「ヲ」加フ

第二條 命令ヲ以テ定ムル港灣ニ由ルニ非サレハ沖繩縣ニ於テ製造シタル清酒濁酒白酒味淋又ハ

燒酎ヲ帝國内ノ他ノ地方ニ移出スルコトヲ得ス

第三條中船政所ニ「ヲ」削ル

第四條第一項中「船政所」ヲ「稅務署」ニ改メ第二項ヲ削ル

附則

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

勅令第十二號沖繩縣酒類出港稅則(明治二十一年三月二十二日官報)抄錄

第一條 沖繩縣内ニ於テ製造シタル清酒、濁酒、白酒、味淋又ハ燒酎ヲ帝國内ノ他ノ地方ニ移出スルトキハ其ノ石數ニ應シ左ノ割合ヲ以テ出港稅ヲ課ス

第二條 出港稅ヲ徵收スルタメ那霸港ニ船政所ヲ設置ス

第三條 帝王ハ酒類ヲ他府縣ニ輸出スルトキ出港稅ヲ船政所ニ納メ船積免狀額收證ヲ受ケ船積スヘシ

第四條 船長ハ船積免狀ニ照シ酒類ヲ船積シ出港前ニ於テ其積石數ヲ船政所ニ届出ヘシ

那霸港外ノ地方ヨリ直ニ出航スルトキハ其地方役所ニ届出ヘシ

○内務省令第五號

本年勅令第六十三號實施後町村會成立スルニ至ルマテ町村會ノ議決スヘキ事件ハ戶長ニ於テ之ヲ決定シ島司ノ認可ヲ受ク可シ

明治二十一年内務省令第四號ニ依リ舊町村會ノ議決スヘキ事件ニ付テモ亦前項ノ例ニ依ル但シ舊町村會ノ存在セル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

明治三十七年四月十二日

内務大臣子爵芳川顯正

○内務省令第六號

明治三十七年勅令第六十三號ハ明治三十七年五月一日ヨリ施行ス

明治三十七年四月十三日

内務大臣子爵芳川顯正

○大藏省令第七號

沖繩縣酒類出港稅則施行細則中左ノ通改正ス

第一條及第二條中「船政所」ヲ「稅務署」ニ改ム

第五條ノ次ニ左ノ一條ヲ追加ス

第六條 沖繩縣ニ於テ製造シタル清酒、濁酒、白酒、味淋又ハ燒酎ヲ帝國內ノ他ノ地方ニ移出スルハ

那覇港ニ由ルヘシ

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十七年四月一日

大藏大臣男爵曾禰荒助

○大藏省令第八號

明治二十二年大藏省令第六號土地臺帳施行細則第一條中「地租」ノ二字及第四條土地臺帳謄本雛形

中地租ノ欄ヲ削除ス

明治三十七年四月一日

大藏大臣男爵曾禰荒助

〔參照〕

大藏省令第六號土地臺帳規則施行細則(明治二十二年四月一日)抄錄
第一條 土地臺帳ハ市町村ニ區別シ土地ノ字番號地目段別等級地價地租所有者及實取主ノ住所氏名ヲ登錄スヘシ

○大藏省令第九號

明治三十六年大藏省令第二十四號中神戸樟腦事務局ノ部ヘ左ノ通追加ス

明治三十七年四月五日

大藏大臣男爵曾禰荒助

出張所名稱	位	置
上 福 島	大 阪 府 大 阪 市	
八 尾	同 府 中 河 内 郡 八 尾 村	
岸 和 田	同 府 泉 南 郡 岸 和 田 町	
茨 木	同 府 三 島 郡 茨 木 町	
平 野 郷	同 府 東 成 郡 平 野 郷 町	
池 田	同 府 豐 前 郡 池 田 町	
枚 方	同 府 北 河 内 郡 枚 方 町	